

樂居 RAKU TOSIKON FORUM

創刊号

2007年7月



アトリエから

建築設計を生業としている私達のアトリエ（都市梶包工房）は間もなく創設40周年を迎える事になります。

創設以来、このアトリエには多くの仲間が加わり、そのつど時代の要望に私たちなりに答えて参りました。今や私たちのクライアントや仲間は全国にあり、作品を通じ、もの造りの情報を通じ、リアルタイムで交流を重ねる事が出来ております。

この通信「樂居」は、そうしたもの造りの確かな情報を私たちのみの知識とするのではなく、私たちの知る皆様へもお届けしようと生み出されたものです。

また、私たちの日頃の創作活動とその実践を皆様にお伝えしながら、素晴らしい職人、アーチスト達、住まい造りの楽しいノウハウ、技術や知恵といったこと等も逐次ご紹介していく所存です。

どうか温かい目でこの「樂居」と、私たちのアトリエを今後とも見守り下さい。

樂居編集スタッフ

アトリエ住人 ースタッフ紹介&座右の銘ー

松尾 邦子

瀬戸内海に面した岡山の中学、家庭科の課題で住宅を設計。その時「これを仕事としていたら！」と感じました。そして今日まで「焦らず、慌てず、諦めず」をモットーに、建て主・つくり手の方々とがっぷり取組み続けられている幸運を感じています。

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□



菊池 裕貴

夏がやってきます。東北育ちのからだには、東京の暑さは堪えますが、冷房は使用していません。何事も小さな出来事を積み重ねていく事は大切です。ということで、座右の銘は「思はあるところに道はある」です。

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

相原 久恵

入社して早20年を超えました。1日が短く感じ、1週間が短く感じ、1ヶ月が短く感じ、1年が短く感じる毎日を過ごしております。

座右の銘「皆の笑顔」を目指し日々勉強と考えております。

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□



横山 陽一

大学2年の初日、コーデュロイジャケットで登場したのが所長でした。講義の最終日、「事務所に遊びに来り」と言わせて行ったところ、それはアルバイトの事でした。「なんで早くこないんだ、今とても忙しいんだ」あれから14年が経ちました。…「信は力なり」

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

小池 なみ

木と人と、物作りに近づきたい、という気持ちから入りました。最初から出来る事は少なくとも、目指す方に向かえば、ふと、視界が開ける時があります。反対に努力が足りない時も自分がいちばん知っています。「為せば成る、為さねば成らぬ」

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□



土屋 雅史

私は伊豆アトリエで主に木造の設計・施工をしてあります。座右の銘と言ふ程ではありませんが「ピンチはチャンス」です。つらいときにこそチャンスは転がっている、視野を広く持つて常に前向きな気持ちでいたいです。

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

西村 洋平

入社2年目、生まれも育ちも生粋の高知。座右の銘は「学ぶとはいかに自らが知らざるかを知る事」です。大学の恩師から頂いた言葉で、知らない事があるという事は逆にまだまだ努力・成長できる可能性がある、という意味で前向きになります。

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□



成田 未紗子

4月に入社して早3ヶ月が経ち、ようやく仕事にも慣れてきた気がします。座右の銘は「明日は明日の風が吹く」。毎日新鮮な気持ちで過ごしたいです。1日1日を大切にできる気がするのですが、ただ楽観的だけでしょうか…?

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

アトリエの風

入之内 瑛

集落に学ぶ

Akira Irinouchi



1960年代後半、建築の一学生だった私は建築以外のことばかりに興味をもっており、建築がそれほど好きになれませんでした。大学闘争という時代状況もあり、毎日のように都内各所のギャラリーをめぐり、現代アートの展覧会場が教室のようなものでした。今思えば真剣に悩んでいたのです。進むべき道は建築か、絵画か、それとも考古学か…。

それが研究室に入り、世界の僻地を訪ね集落調査を行うことになり、様々な地域の民家や文化に出会いに従って、自分の内の何かが音を立て剥がれ落ち、新たに何かが生まれるのを感じたのです。以来、建築を考え住まいや都市を創造することが三度の食事より好きになりました。

自然、環境がどれほど厳しい地域にでも人々は暮らし、そこには固有の生活が、住まいが、そして文化がある。世界を巡る集落調査は今日までライフワークとなっております。50ヵ国、1000集落程を今まで訪れているでしょうか。

工業化、そして画一化…結果として没個性が都市の主流となった今日。住居や建築は本来、人々の生きる知恵や願望を反映し、固有の思いの結晶であったはずです。いまこそ世界の集落からの教えが、知恵が必要な時と考えております。アトリエではそうした体験と経験を活かした町造りや、個性的な建築造りを目指しております。

美しい集落がそうであるように、素晴らしい町もまた一人では出来ません。皆さん一緒に行動致しましょう。

作品紹介

ー住宅建築ー

街の住まい

■ 千駄木 KUBO 邸

～小さな自然を建築に仕組む～



所在地 東京都文京区千駄木
延床面積 184m²
構造/規模 RC造(1部S造)/地下1階地上3階
竣工 1995年1月

都心に築かれたこの建物は、都内で医院を営むKUBO氏の家です。

都心と郊外の違いは、「住居の建つ周辺の環境がどれだけ自然と遊離しているのか」の違いであり、設計はそれらの関係をいかに住空間として整理し、仕組むかが大切です。さらに建築の密集地、混在地となれば、周辺に惑わされる事なく「家族がいかに自立した生活を営めるか」も重要なテーマとなってきます。



各階を結ぶ中庭の吹き抜け。光、風、緑を感じられる場であり、また、失った自然をとり戻し、住まいの自立性も保てる場となっている。

自然の住まい

■ WATA 伊豆の家

所在地 静岡県伊豆市
延床面積 188m²
構造/規模 木造/地上2階
竣工 2005年5月



「退職した後、自然の豊かな中で夫婦各々の趣味を生かしながら生活したい」 そうした設計依頼が近年多くなっています。この傾向は現役時代、社会に果敢に生きていた家族程強いようです。

この家では夫人はガーデニング、夫は釣りと工作の趣味を持つため、ガーデニングと工作の為の空間を他の部屋よりも最優先に考えて、間取り、配置に取り入れました。

